

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

2022年6月5日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「バンダリースに生きる」

—自己点検—

テキスト：第一ヨハネの手紙2章18～21節

はじめに

・お早うございます！

- ・私たちの人生は、「時」が連続してつづられています。
しかし、一口に「時」と言ってもいろいろありますね。先ず個人的な「時」があります。ある方には、今年は入学の「時」です。ある方には就職の「時」です。ある方には、結婚の「時」です。マイホームを建てる「時」です。
- ・会社や政治の世界にも「時」があります。
たとえば、国際的にみれば今年2月24日はロシア軍がウクライナに侵攻した「時」でした。この「時」は、きっと世界史に残るでしょう。
当初、戦争は約1週間で終わるだろうと推測されました。しかし、3か月過ぎましたが、まだ終わっていません。多数の人々が死傷し、今も苦難を味わっています。
- ・さらにロシア軍のウクライナ侵攻によって、NATO（北大西洋条約機構）は西側陣営の結束を一層強めることとなりました。その上、中立を保ってきたフィンランドとスウェーデンが、NATO加盟を申請することとなりました。これはプーチン大統領の野望が裏目に出たことは否定できないことです。
- ・皆さん。マスコミ（モーニングショー、ワイドショー）から流れるニュースは、このような出来事を報道しています。私たちはこのように自分個人の「時」や、世界のさまざま出来事が起こる「時」の中で、生活しています。そして多かれ少なかれ、それなりに心奪われているのではないのでしょうか。しかし、もう一つの大切な「時」を忘れていないのでしょうか。
- ・それはイエスが言われたことばです。ルカ21章
21:34 **あなたがたの心が、放蕩や深酒や生活の思い煩いで押しつぶされていて、その日が畏のように、突然あなたがたに臨むことにならないように、よく気をつけなさい。**
それは ⇒ 「神の時」のことです。
- ・聖書は、神の計画全体の中で今はどんな「時」か見失ってはいけないと教えて

います。そこで、今日私たちは大切な「神の時」について考えてみたいと思います。
2点

大切なポイント

1. 「神の時」

1) もっとも大切な「時」

- ・この書簡の著者長老ヨハネは、こう言いました。
2:18 幼子たち、今は終わりの時です。反キリストが来るとあなたがたが聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であると分かります。 I ヨハネ
- ・私たちは聖書を読む時、神の計画全体の中で、今はどんな「時」か知らなければなりません。神は天地を創造された「時」から、キリストの再臨による新天地に至るまでの計画をお持ちです。
- ・神はその計画に沿って「時」を進めておられます。「時」は、決して目的なく流れているではありません。同じ軌道の上を反復しているのでもありません。いいえ、神の計画の内を進んでいるのです。それは神が定められた目的に向かい「時」は進んでいます。
- ・そこで、神の時全体の中で「今」はどんな「時」でしょうか。
ヨハネは「今は終わりの時です。」と言いました。「終わり」とは、「最後」と言う意味です。すなわち、神の計画全体の中で最終段階にさしかかっているという「時」です。

2) 終わりの「時」

- ・新約聖書は、「終わりの時」を次の二つの意味で用いています。
 - ① イエス・キリストがお生まれになってから、再臨されるまでの全期間と言う意味です。それを新約時代、教会時代などと呼びます。聖書はこの「終わりの時」について、次のように記しています。 使徒の働き 2章
2:17 『神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。』
- ・ヘブル人への手紙 1章
 - 1:1 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、
 - 1:2 この終わりの時には、御子にあつて私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。

- ・今は「終わり時」です。この段階で、神はすべきことを完了されました。後はキリストの再臨を待つばかりなのです。

② 第二の「終わりの時」は、第一の「時」の中でもキリストの再臨が非常に近い「時」を指す意味です。この場合、キリストはいつ来られても不思議ではありません。ローマ人への手紙

13:11 さらにあなたがたは、今がどのような時であるか知っています。あなたがたが眠りからさめるべき時刻が、もう来ているのです。私たちが信じたときよりも、今は救いをもっと私たちに近づいているのですから。

- ・第二テモテへの手紙 3 章

3:1 終わりの日には困難な時代が来ることを、承知していなさい。

皆さん。長老ヨハネがここで、「終わりの時」と言っているのは、この第二の意味です。それが今の時代、すなわち私たちが生きている「時」であります。

- ・では、なぜ今が「終わりの時」と言えるのでしょうか？
聖書は「終わりの時」の兆候を記しています。

2. 「終わりの時」の兆候

2:18 幼子たち、今は終わりの時です。反キリストが来るとあなたがたが聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今が終わりの時であると分かります。I ヨハネ

- ・当時の人々（約 2 千年前の）は、イエスが再臨される前には、反キリストの出現をはじめ、暗い出来事が起こることを聞いていました。イエスは何度も繰り返し予告されました。ルカ福音書 21 章

21:7 そこで彼らはイエスに尋ねた。「先生、それでは、いつ、そのようなことが起こるのですか。それが起こるときのしるしは、どのようなものですか。」

21:8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れて、『私こそ、その者だ』とか『時は近づいた』とか言います。そんな人たちの後について行ってはいけません。

21:9 戦争や暴動のことを聞いても、恐れてはいけません。まず、それらのことが必ず起こりますが、終わりはすぐには来ないからです。」

21:10 それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、

21:11 大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい光景や天からの大きなしるしが現れます。

・使徒パウロも、キリストの再臨の前に「不法の人」が来ると言いました。

2テサロニケ人への手紙 2章

2:3 どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教が起こり、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないのです。

・その反キリスト、今や多く現れています。その兆候によって、今が「終わりの時」であることが分かります。ヨハネによるこの書簡が書かれてから現在に至るまで、今日キリストが再臨されても不思議ではない、「終わりの時」が続いているのです。

1) 反キリスト

2:19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし仲間であったなら、私たちのもとにとどまっていたでしょう。しかし、出て行ったのは、彼らがみな私たちの仲間でなかったことが明らかにされるためだったのです

・ヨハネまず、反キリストは教会との関係で現れると述べました。

「反キリスト」とは、キリストに反するものです。

「**私たちの中**」、すなわち教会の中にいて、その本性は目立たなかったのです。ここに地上の教会の不完全さがあります。彼らは「**もともと私たちの仲間ではなかった。**」のです。

・信仰の告白を異にする者が教会の中にいました。彼らは教会を乗っ取ろうとしていました。たとえ、どんなに人間的に親しくても、それで神の家族になるわけではありません。ヨハネは言いました。「**出て行ったのは、彼らはみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためだったのです。**」

・それは必要なことでした。「終わりの時」には、光とやみとが明らかにされています。

{例 話}

・You Tube でいろいろな動画を見ていると、自称預言者という人たちの多さに驚きます。「**神の声を聞いた**」とか、「**聖霊から示された**」と言って、毎日のように何千、何万人もの人々にメッセージを発信しています。

- そして必ず強調されるのは、「これは神のみことばだ」ということです。最近では、コロナ・パンデミックに関して、ワクチン接種に関する具体的な内容のメッセージがありました。それは「神のみことば」とであると堂々と語られています。
- 「ワクチンにはマイクロチップが入っているから、それを体内に入れると、ずっと監視されることになる」、また「ワクチン接種はヨハネ黙示録で預言されている『野獣の刻印』に当たるから、それを受けた人は地獄に陥る。」
- このような「予言」から、神からのものと受け止めて、ワクチン接種を拒否している人々が世界中にいます。米国の例では、約4,500万人もの人々がワクチンを打つ予定はないと表明しているそうです。もちろん副反応を心配して、そのように判断した人たちもいます。しかし宗教上の理由で、拒否している人々かなりの人数いると言われています。

2) 「反キリスト」を見分ける判別力

- 長老ヨハネは、本物のキリスト者は「反キリスト」を見分ける力を持っていると言います。

① 聖霊をいただいている

2:20 あなたがたには聖なる方からの注ぎの油があるので、みな真理を知っています。

- 聖霊は助け主です。生ける神の御霊が働いてくださり、真理を示してください。ですから聖霊とともに歩むことは大切です。

② 彼らは真理を知っている

2:21 私がこのように書いてきたのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからです。また、偽りはすべて、真理から出ていないからです。

- では、どうすれば真理を知ることができるでしょうか？
イエスは「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」(ヨハネ14:6)と言われました。すなわち、イエス・キリストを知り、イエス・キリストとともに歩むことです。すると、見分けることが可能となってきます。聖霊が示してくださるからです。
- いかがでしょうか？ 私たちは見分ける判断力をどれほど持っているのでしょうか？ イエスはマタイ福音書7章で言われました。

7:13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。

「狭い門」はその狭さのゆえに、攻撃されます。

- この世の人たちの生き方と神の子の生き方は、大きく違います。私たちはどれほど判別力を持っているでしょうか。「終わりの時」に生きる者として、反キリストを識別できるでしょうか。
- 反キリストとキリスト、その境界線はあいまいになってはいないでしょうか。信仰の告白が、ただの飾りの文章となっていないでしょうか。私たちは現在、反キリスト(悪の力)が大きく働く「終わりの時代」と、「神の国」との闘いの中に置かれているのです。
- バンダリース(境界線)をしっかり持たなければなりません。世の流れに流されてしまいます。潮流はそれほど速いからです。自己点検は必要ではないでしょうか。

ま と め

主 題：「バンダリースに生きる」

—自己点検—

- 今朝も主は私たちにお語りくださいました。私は、次の聖句で今日のメッセージを終わりたいと思います。

2:20 あなたがたには聖なる方からの注ぎの油があるので、みな真理を知っています。

*God bless you!